



前回、「フンドシャフト」を考える場合に感じるべき視覚、臭覚、触覚、聴覚について書いた。今回は、味覚と心である。

【味覚】

飯盒炊飯で炊いたお米と、電気炊飯器で炊いたお米とどちらがおいしいだろう。

おそらく多くの方が、飯盒炊飯と答える。それ

はなぜだろうか。

これは、食事をするときのムードが味を決定付けているためだ。飯盒炊飯のご飯を一人で食べることはないだろう。気のあった仲間とわいわい言いながら食べるはずだ。

つまり、味覚には絶対的な部分と、感覚的な部分がある。私は後者の占める割合が多いように思う。

これは次に述べる「心」との兼ね合いが重要になる。

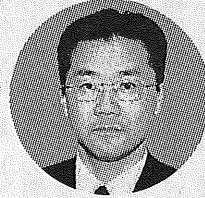
【心】

五感で美しい、耳あたりの良い音色だ、良い香りだ、心地よい手触りだ、

欧州環境共生事情④

ランドシャフト その3

ハタコンサルタント
代表取締役



降旗 達生

と感じたからといって、「好きだ」「気持ちよい」「また来たい」と感じるかどうかは別問題だ。「好き」と感じるかどうかは、五感同士の組み合わせと、さらに複雑な「心」の動きが要因となっている。

つまり、五感は「好き」「また来たい」と感じるための誘い水となるが、それが決定的要因となるとは限らない。「美しく、良い香りのする」女性を、多くの人が共通に「好き」になるとは限らないのだ。

したがって、近自然思想ではこの「心」の部分

が最も重要だ。「五感」をフルに活用して計画したプロジェクトでも、「また来たい」と多くの人が感じるような計画にしないとけない。そのためには自らの「心」を鍛え、そして耳を傾ける必要がある。

そのために重要な「心」の持ちようとは、月並みだが、自然を愛する「心」、長い地球の営みに感謝する「心」、次世代の人に奉仕する「心」だ。

これらを持ってプロジェクトに挑むというところが近自然思想であると解釈している。

(おわり)